

## 【南毛利地区】令和7年度あつぎタウンミーティング実施結果

日 時: 令和7年7月31日(木) 午後6時56分～午後8時6分  
会 場: 南毛利公民館 1階集会室  
参加者: 地区の自治会長(33名)、公民館地区館長  
市長、副市長、教育長、企画部長、企画部次長、総合計画担当課長、公民館・地区市民センター長

自治会長からの意見	市長等からの回答
<b>意見1 近隣への通勤が便利なまちについて</b>	
<p>【谷戸長谷自治会】 ■厚木市は電車で東京・横浜の中心地へ、最大で1時間30分程度で行くことができるため、多くの市民が通勤や通学等で電車を利用しています。 また、市内には優良企業も多く、通勤で訪れる方も多いため、本厚木駅は小田急線で乗降客が7番目に多い駅です。 この地の利を維持向上するために、10年先を見据えて、本厚木駅集中からの脱却を目指し、愛甲石田駅の利便性を高め、南毛利を始めとする小鮎、森の里、玉川、相川地区周辺の方が、愛甲石田駅を利用し、通勤できるような、分散する都市開発の計画について、市の考えをお伺いします。</p>	<p>■本市には、世界に名高い企業が立地し、企業からも市に対して、通勤の快適さを求められています。 厚木市都市計画マスターplanでは、本厚木駅周辺地区を都市中心拠点、愛甲石田駅周辺地区を都市拠点として、位置付けています。 愛甲石田駅周辺の再開発については、令和5年1月に「愛甲石田駅周辺まちづくり基本構想」を策定し、令和6年度から、まちづくりの主体としての意識の醸成及びまちづくりに関する機運を高めることを目的に、地域の皆様との意見交換会を実施しています。 開発を進めるに当たっては、地元の皆様の考え方を聞き、近隣の伊勢原市と接する立地環境や、会社員や学生など様々な利用者の声を考慮しながら、開発を進めていく必要があります。令和7年7月には、愛甲三郎納涼祭りの会場内において、愛甲石田駅周辺のまちづくりに向けたオープンハウスを開催し、アンケートにより、市民の皆様からの御意見の収集を行いました。 今後についても、市街地再開発事業等に合わせ、北口駅前広場の拡張や駅へのアクセス性を高めるための周辺道路整備等、愛甲石田駅周辺における交通環境の改善に取り組んでいきます。 先般、御意見いただいた中で、愛甲石田駅から長谷へ向かう道路で、森の里入口の交差点の幅が狭いため、路線バスが曲がれないという課題を聞いたところです。市としても、こうした課題を解消し、愛甲石田駅に着目し、交通環境の改善に取り組んで行きます。</p>
(担当課:都市計画課、市街地整備課)	
<b>意見2 自治会活動のデジタル化について</b>	
<p>【高坪第2自治会】 ■自治会活動に携わることになり、紙資料の多さや、自治会に託されている活動の多さに戸惑っています。 デジタル化した情報伝達として、例えば、多くの異なる活動母体から通知される会議の連絡やスケジュール等、管理が大変になっています。 市のホームページサイトは年々、充実してきていますが、自治会活動に特化したポータルサイトを設け、ログインすることで、そこから一元的に会議資料の閲覧、個人の会議出欠報告やスケジュール管理等の情報収集・伝達を行うようにできないでしょうか。 また、自治会活動で多く利用する申請手続などが、市の専用ポータルサイトから申請できると大変便利になると考えています。 デジタル化については、課題もあると思いますが、自治会活動の充実のために、検討をお願いします。</p>	<p>■現在、市において、紙資料を少なくする取組を進めるとともに、自治会の役割や負担軽減に向けて、自治会活動における各種申請手続や市との連絡調整等のデジタル化を進めています。 また、今年から自治会の文書等をいつでもどこでも確認できる電子回覧板を導入し、参加しやすい自治会活動に向けた支援を進めています。 話がありました自治会関連専用のポータルサイトは、情報を効率的に共有し、相互のコミュニケーションを促進することから、有意義であると考えています。 しかしながら、市内全体で進めていくには、幅広い年齢層で構成される市の自治会連絡協議会において、デジタル化に対する理解に差があることや、操作が不慣れな方やスマートフォン等を持っていない方もいることから、まずは公民館単位で取り組んでほしいと考えています。 利用する環境が整った地区においては、市でも支援していきます。また、自治会活動のデジタル化に向けて、ニーズを把握しながら取り組んでいきます。</p>
(担当課:DX推進課、市民協働推進課)	

### 意見3 未来に向けた地域活性化の取組について

#### 【愛名第2自治会】

■愛名地区を含む南毛利地区は、豊かな自然と住みやすさが共存する「ちょうどいい」まちで、丹沢の山並み、河川、公園、緑道、静かな住宅街、人と人との温かいつながりが、この地域の誇りです。しかし、今後は、高齢化、人口減少等の課題にも直面していることから、地域の魅力を高め、人が集まるまちに向けて地域活性化の取組として、次のことを提案します。

- ①愛名緑地等の大きい公園を生かした期間限定のBBQ会場づくり
- ②空き家等を活用した多世代交流のためのフリースペースの整備
- ③自然豊かで美しいまちを目指し、恩曾川付近の河川周りや道路脇の除草の一斉実施

BBQについては、地元食材の活用などにより地域のにぎわいと経済の循環を目指します。

また、近年の温暖化による影響で道路や河川の雑草が恒常に繁茂している状況を目にします。行政による定期的な除草の継続に加えて、まちをきれいにするため、自治会等の地域住民による一斉清掃活動の実施を提案します。

まずは「ちょうどいい」まちという視点で地場産品、イベント、自然の魅力を発信し、市内外から注目される地域や、若者も住みたくなるような、未来に向けた地域づくりを検討してほしいです。

■愛名緑地については、都市計画決定された「都市緑地」に該当し、自然環境保全が最優先される公共空地として位置づけられています。

火器を使用するBBQ会場としての利用はハードルが高い状況ですが、愛名緑地の地域の憩いの場としての活用方法やブランド化の可能性も含めて、自治会長と一緒に意見交換を進めながら、考えていきます。市としては引き続き、適正な維持管理に努めています。

空き家については、空き家の解消や不動産流通の促進に向けて、空き家の売却や賃貸を希望する所有者に対しては、所有者と不動産事業者をつなげる仕組みを構築し、その効果も出ています。

また、今年度、市内全域で空き家の実態調査を実施するとともに、空き家所有者に対して、今後の利活用等に関する意向調査も行う予定なので、その結果を分析し、地域での空き家活用を含めた有効活用を研究していきます。

空き家を地域のフリースペースとしての活用については、すばらしい提案と認識していますが、空き家は所有者の財産であるため、売却を考えている方やそのまま所有し、将来的に所有者や親族が利用することを希望されている方等、所有者の意思を確認し、皆様の憩いの場としての利用についても研究していきます。

道路脇の草木の除草作業については、年間2回から3回実施し、取り組んでいますが、地球温暖化の影響により、草木の伸びる早さに追いつかない状況です。除草だけではなく、市道の美化活動として、ボランティアによる草花の植え付けや、除草、清掃等の活動に必要な支援も行っていますので、今後も訪れる人も感動するきれいなまちづくりを進めています。是非、御提案の一斉除草活動については、市も協力していきますので、自治会の皆様の御協力をお願いします。

#### 《実施日以降の対応状況等》

■市内道路区域の除草については、年間2回から3回の除草作業を実施中であり、来年度以降も引き続き2回から3回実施する予定です。

(担当課: 市民協働推進課、生活環境課、住宅課、公園緑地課、道路維持課、河川下水道総務課、河川下水道施設課)

### 意見4 犯罪や不審者への対応について(追加)

#### 【恩名5丁目自治会】

■恩名地区においては、犯罪や不審者が多くなったと感じています。センサーライト等で、自己防衛していますが、夜になると暗い環境が多くあり、不安を感じています。防犯対策について、市長の考えをお伺いしたいです。

■恩名5丁目自治会に限らず、防犯活動は地域で取り組んでもらっているところです。セーフティベストを着て、パトロールをしてもらうなど、地域の目が不審者や犯罪の抑止力につながると認識しています。

また、市では青色防犯パトロールが地域を回るとともに、地域に防犯カメラの設置を促す補助制度も設けながら、安心安全なまちづくりに取り組んでいます。

行政と地域が共に見守り活動をすることで、複合的な対策となり、皆様の安心安全な生活につながると認識していますので、アイデアがあれば是非、市にも提案をお願いします。

(担当課: くらし交通安全課)